

■私たちは電柱の下で生きている、と言っても過言ではありません。電線の地下化を進める動きもあるようですが、それはかなり先の話。その、毎日私たちがながめている電柱に、実は名前が付いていることに気づいている人は、どのくらいいるのでしょうか。

■電柱には電気(東京電力)と電話(N T T)の二つがありますが、まとめて一本のところも多くあります。電柱の名前はその両方につけられています。両方を兼ねている電柱には二つの名前がつけられているのです。例えば、井頭橋の南大泉4丁目側の電柱には「七福」と「中新田」、東大泉7丁目側には「七福」と「見返」、火の橋の南大泉側は「弁天」と「中新田」、東大

泉側は「弁天」と「見返」というぐあいにつけられています。「七福」「弁天」は東電がつけた名前、「中新田」「見返」はN T Tがつけた名前です。

■さて、白子川の現在の源流部は以前「弁天池」と呼ばれていたそうです。弁天は正式名称「弁才天」、髪を頭の上に結いあげて、琵琶を持っている女神で、もともとはインドの河の神様ですから、日本でも各地の川や溜め池、海などに祀ってあります。ちなみに「関東三大弁天」というのがあって、武蔵野三大湧水と言われた、石神井川水源の三宝寺、善福寺川の善福寺池、神田川の井の頭池にはそれぞれ弁天社があるようです。この弁天は、日本では近世になると「七福神」の一員として信仰されるようになります。七福神とは、

恵比寿・大黒天・毘沙門天・福祿寿・寿老人・布袋、そして弁才天です。電柱には「七福」という名前がつけられているところを見ると、この源流付近には「弁天」だけでなく他の神様も祀られていたのではないのでしょうか。そのあたりのこと、ご存じの方いらっしゃったら、ぜひお教えください。

■それでは、N T Tがつけている「中新田」とは何のことでしょうか。1909(明治42)年の五万分の一地図には、源流部付近に「中前新田」「前新田」「新田」「水溜」などの小字(こあざ)名が見られます。この辺りが新しく切り拓かれた土地だったことがうかがえます。今では失われたこれらの名前からとってつけ

られたものと考えられます。

■では、電気・電話はいつごろに引かれ、電柱はいつごろに立てられたのでしょうか。詳しくは分かりません。電気は大正から昭和のはじめのころ、電話はそれよりずっとあとのことになるでしょう。以前N T Tに、どういふ基準で電柱の名前をつけたのか、と問い合わせたことがあります。敷設に関わった人がつけたと思うが詳しいことは分からない、とのことでした。

■とにかく、こんなふうに、電柱の名前はこの土地の歴史を背負っているのです。そういえば、「見返」という名前がありました。これについては次号の後編で探ってみたいと思います。

(東谷 篤)

電柱にも名前があることを あなたはご存じですか？



上が「中新田」、下が「弁天」